

大阪府保育士会だより



ほほえみ

平成 26 年 6 月 1 日
第 97 号

大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪市中央区中寺 1-1-54
TEL 06-6762-9001

平成 26 年度事業計画

- 4 月 24 日 26 年度総会
- 6 月 13 日 保育士研修会
「コミュニケーション美人になる方法」
＝ 講師 / 坪内美樹氏
- 7 月 10・11 日
近畿ブロック保育研究集会
(神戸市)
- 8 月 8、25、29 日の 3 日間
保育士の専門性を高める連続研修会(園長・リーダー・主任保育士研修会)
- 9 月 22 日 保育士研修会
『誕生学「生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる」～自己肯定感を高める取り組み～(仮題)』
＝ 講師 / 大葉ナナコ氏
- 10 月 16、17 日
全国保育士会研究大会(高松市)
- 11 月 12～14 日
全国保育研究大会(秋田市)
- 11 月 17 日
保育士研修会『「サポートブック」の活用について～発達障害を考える(仮題)』
＝ 講師 / 小田浩伸氏
- 27 年 2 月
保育士研修会「保育の質の向上をめざす指導計画(仮題)」＝ 講師 / 柏原栄子氏
全国保育士研修会

風薫る季節となりました。新入園児は落ち着いてきた頃でしょうか。保育士会総会(4月24日)には、新年度が始まりご多忙の中、200名を超える方々にご出席いただきました。改めてお礼申し上げます。

大詰めの新制度施行を注視

さて、子ども・子育て支援新制度の平成27年度からの本格施行に向け、国の子ども・子育て会議などで、各種基準や公定価格の方向性がまとめられ、新制度の議論は大詰めを迎えております。保育士としても、新たな制度の議論の内容を注視していくことが大切であると考えております。

度、保育園は保育園として継続するのか、あるいは認定こども園に移行するのか、判断することになります。

しかし、私たちは様々な変化・制度改正に対応しながらも、人間の成長で最も大切な時期に関わり、子どもが笑顔で過ごせる保育やその環境



専門性の向上と子育て支援の充実を 新年度迎え高田テルミ会長

度、保育園は保育園として継続するのか、あるいは認定こども園に移行するのか、判断することになります。

「自己充実欲求」と「整合希求(人とともにいたい・人と繋がっていたいという感情)」という言葉があります。「私は私」と言える心と「私

入会をいただいております。皆さまはそれぞれ日々研鑽を重ねられ、次代を担う子どもたちの健全育成にご尽力されていることと思います。

保育士の専門性のさらなる向上、地域の子育て家庭支援の充実、保育園としての役割を積極的に担えるよう、大阪府保育士会と

26年度総会

平成26年度保育士会総会が4月24日、245名が参加し、ホテルアウイーナ大阪で開催されました。参加者全員で全国保育士会倫理綱領を読みあげたあと、高田テルミ会長が挨拶、来賓を代表し大阪府福祉部子ども室の三ツ石浩幸室長が祝辞を述べられました。

議事では平成25年度の事業報告、収支決算、26年度の事業計画、収支予算をそれぞれ承認。第二部では、テレビで活躍中の黒川伊保子氏(株式会社感性リサーチ代表取締役・倉敷芸術科学大学非常勤講師)が「しあわせ脳に育てよう」子どもの脳を豊かに育む脳科学」をテーマに記念講演されました。

(2面に要旨)

十代にも知ってほしい子育て

中高生の実習受け入れ職場体験

支援内容を共有しネットワークづくり
— 東大阪市の連携会議 — 本庄保育園

東大阪市内では、子育て支援の連携とネットワークづくりを目的として『地域子育て支援連携会議』が、地域の子育て支援センターを拠点に設けられています。

本庄保育園のあるC地域は、5つの小学校区(2つの中学校区)で構成。連携会議には中学校・小学校、民間保育園、つどいの広場、民生委員、更生保護女性会、家庭児童相談員、保健センター、子育て支援課などのメンバーが集まり、支援内容を共有しています。



それぞれの団体や機関の活動内容を知ることができ、うづ、課題や悩みなどを交換する機会でもあります。中には解決困難な問題でも、連携会議のネットワークを生かし解決に結びつくようなことも少なくありません。

昨年度の場合、妊娠中に育児不安を訴える人の多いことが指摘されました。安心して出産、子育てしてもらうため、プレママ専用の情報を母子手帳に挟み込んでほしいという意見が出され、その場で保健センターと子育て支援課が連携し検討に入る段階まで進みました。

また、保健師から、近年、10代の妊娠率が高いという報告があり、これに対して妊娠前の「教育」の重要性が指摘され、学校教育の中で命の大切さを教えることが虐待防止にも繋がるという意見が出されました。子育て中の親子だけでなく、親になる前から

「いのちの教育」が必要と強く感じさせられました。保育園では乳児とふれあうことでその温もりを知り、自分もそのように育てられ成長したことを感じてほしいと思うからです。

は、地域の中学生や高校生の実習(職場体験など)を受け入れていますが、その際、男女の区別なく、できる限り赤ちゃんと過ごすよう促し、おむつ交換や食事のお手伝

これからも、保育園が担う「子育て支援」のあり方を、広い視野を持って学び、取り組んでいきたいと思っています。(東大阪市 S・H)

総会・記念講演要旨

「心のちから」育てる 黄金ルールは？

「天才とは、蝶を追っているうちに、いつのまにか山頂に登っている少年」という言葉がありますが、勝手に努力してしまう「心のちから」の持ち主です。心のちからを育てるのは脳内ホルモン。脳内ホルモンが出るから、好奇心や意欲を引き出せます。脳内でホルモンを分泌するための黄金ルールを紹介します。

①早寝(メラトニン) メラトニンは記憶力、発想力、想像力を作り出します。脳は眠っている間に成長します。思考が止まる睡眠の間に、今日経験したことを再生し確かめ、知識をつくらせていきます。最も上質な眠りは夜10時〜12時の間。小学校に入るまでに生活習慣を付けておきましょう。暗くして寝ること、起きる時間をしっかり思ってから寝ること(体内時計を整える)、夜風呂につかること



黒川伊保子氏

でメラトニンの分泌量が数倍増えるという結果もあります。

②早起き(セロトニン) セロトニンの効果は意欲や感動力を下支えします。セロトニンを多く得るためには朝日とともに起きること。カーテンを開けて部屋を明るく。お勧めは5時45分、通年光を最も無駄にしない時間です。次に、習慣的に網膜が自然光を感じる場所で軽く身体を動かすことが効果的。

③朝ごはん 何より大切なのは「朝ごはん」。脳はエネルギーがなければ動きません。その源は「ブドウ糖」のみ。もっとも空腹にいくなり糖質を摂取するのは要注意。脳にいい食べ方は、ブドウ糖を次の食事までゆっくり安定供給すること。朝ごはんは菓子パンなどを避け、味噌汁や野菜などを先

に食べさせてから、タンパク質を具にしたおにぎりなどを用意してあげましょう。④読書 読書体験も脳の中で反芻し、知識や知恵、センスを磨きます。2歳までにスキップと語りかけを通して絵本と出会うようにしましょう。3〜8歳は読み聞かせや音読の時期。9〜11歳は脳神経回路が劇的に増える脳のゴールデンエイジ。読書効果はピークを迎えます。13〜15歳は分別や忍耐をつくる前頭葉の成長期。戦争や犯罪など負のテーマにふれてみるのもいいでしょう。

⑤適度な運動(ドーパミン、ノルアドレナリン) ドーパミンはモチベーションを高め好奇心を引き出します。ノルアドレナリンは集中力を高めます。脳は好奇心だけでは成長できません。次々湧き出てくる好奇心を抑制してくれるホルアドレナリンが必要。この二つのホルモンを同時に出すには「運動」しかないと言われています。(事務局)

編集・執筆スキルに、心理学の裏付け

私は大学卒業後14年間、健診団体の広報室で編集・執筆を担当していました。取材をもとに一般・医療者向けの記事を書き、レイアウト、校正をする仕事です。その後、米国コロラド州

の大学院で5年かけて安全の心理学（社会／健康心理学の一分野）を学び帰国。以来6年になります。

今は特に、保育現場・行政が子どもの命を守るための具体的な行動に取り組みにはどうすればよいかをテーマにしています。

私の専門分野では、対象集団に働きかけ、意識や行動を変えていくことがゴールです。今の私であれば、「子どもの命を守ることが、保育者の心と仕事を守るうえでいかに重要か」を効果的にお伝えするコミュニケーションの部分が重要になります。この文章も「より効果的に！」と考えながら書いています。

私にとって「書く」編集する「添削する」という行

動は慣れていて、とっつきやすいもの。そこに「人を動かすため、人に伝えるための心理学」をプラス。そこから始まったのが「園だより、クラスだよりの添削」です。

「読みたい」と思うおたより作りを

今の園だよりやクラスだより、連絡帳に書かれている文章には、伝えたいことが伝わりにくい文章、または、保護者が「読もう」と思えないものが少なくありません。明らかに保護者をいらだたせる文章もあります。長期的に、保護者との関係を悪化させる原因となりかねません。

あなたの園で、園だよりはどんな位置づけですか？「保護者との大事なコミュニケーション手段のひとつ」…、この連載はそうお考えになる先生に向けたものです。ぜひ、役立ててください！

美しい文章を書けるようになる必要はありません。園として、保育者として、伝えたいことが伝わるおた

より「保護者が読もうと思えるおたより」を書く。同時に、「保護者に『何、この先生』と思われる内容や書き方」を避ける。これが柱です。コツさえつかめば、たいいていの人になります。

この連載では、私が3年

学びシリーズ28

伝えたいことが伝わるお便り作り①

保育の安全研究・教育センター代表 掛札逸美

近く続けてきた添削から気づいたことをお伝えしていきます。

ポイント1

主役は「子ども」

あまりにも当たり前のごとですね！でも…、実は園だよりやクラスだよりを読んでみると、「子ども」「子どもたち」「お子さん(さま)」

「子ども(たち)」という言葉をしっかり入れる例

進級から2か月、新しい環境にもすっかり慣れてきました。

→進級から2か月、ひよこ組の子どもたちは、新しい環境にも～

保育者にとっては当たり前すぎる「子ども」という言葉。でも、おたよりや連絡帳の中で保護者の目をもっともひくこの言葉をもっと使ってください。

ポイント2
「〇組さんたち」より「〇組の子どもたち」

ポイント1の派生形です。保育者は子どもに呼びかける時、「はい、〇組さんたち」「〇組のお友だち」と言います。そして、おたよりにも「今日は〇をした〇〇組(さんたち)です」と書きがちです。

「〇組さんたち」より「〇組の子どもたち」としては当たり前すぎることで、たとえば「保護者の皆さんのご参加をお待ちしております」と書くべきところを、「ご参加をお待ちしております」だけで済ませるケースが多々あります。

ポイント3
「保護者の皆さん」と呼びかける

これもポイント1の派生形です。これまた保育園にとっては当たり前すぎることで、たとえば「保護者の皆さんのご参加をお待ちしております」と書くべきところを、「ご参加をお待ちしております」だけで済ませるケースが多々あります。

「相手はこの文章をどう解釈するのか」「相手の心にはこの言葉がどう響くのか」を考えて初めて、効果的なコミュニケーションを作ることができます。

「保育の工夫—現場を訪ねて—」

家庭の雰囲気思わせる食事風景

—小川で分ける乳児と幼児の遊び場 夢を育てる多彩なふれあい—

高槻市・浦堂保育園



乳児の食事風景

浦堂保育園は建替え後5年。明るい園庭には、自然公園のような切り株や盛土・積石などこだわりの配置がされ、お地藏様も安置されています。保護者有志と協働して作られたそうです。デコポコの園庭を流れる小川(ビオトープ)で乳児と

幼児の遊び場が分けられています。乳児側には低木のジュンベリーやブラックベリー、幼児側には枇杷やイチジクなどの大きな果樹を植え、収穫の経験を大切にされているようです。

保育内容にも工夫がみられます。0、1、2歳児の育児担当制保育、3、4、5歳児の異年齢保育を軸に、年長児の就学に向けた取り組みとして年齢別保育活動、幼児向けには専門指導者による体操や陶芸などの特別保育を展開されています。

乳児の食事では時間差で、担当職員が一人ずつ膝の上で0歳児を抱いてテーブルに向かって座り、離乳食を勧められています。隣の子の様子が気にならないよう手づくりのパーテーションで仕切る配慮は、まるで家庭にいるような自然な雰囲気でした。(写真)おかわりで満足させるのではなく、しっかりと口を動かし適量を食べることを勧めてもらったのも印象的です。同じ時間帯、3、4、5歳児の異年齢保育室では絵本やブロック、ごっこ遊びな

どのコーナーで好きな遊びを自由に楽しむ姿が見られました。しかし、大きな声が飛び交う様子もありません。

案内してくださった主任保育士の濱崎心子先生は「言葉や物を投げるのではありません、手渡すことを心がけています」と話されています。

園の保育目標の一つに掲げられている「一人ひとりを大切にすることで自分を愛すること、人を愛することができる子どもに成長していくための保育」の一端を感じました。

(高槻市 K・H)

地域とともにふれあい大切に

幅広い年代とふれあう 「ごども家庭フォーラム」

中学校音楽部と共演—堺市・五ヶ荘保育園—



五ヶ荘保育園では、日頃から園児と地域のみなさんとの交流をさまざまな形で行われていますが、その一つにユニークな「ごども家庭フォーラム」への参加があります。

子ども家庭フォーラムとは、堺市全体で中学校区ごとに年一回開催されているもので、各区の主任児童委員が中心となり、子育て支援の輪を広げることを目的としています。フォーラムには、主に未就園

児親子が参加され、交流や学びの場となっています。

本番前には、中学校の音楽部の生徒さんが保育園に来園し、子どもたちに珍しい楽器を紹介し演奏してくれました。最初は園児との接し方に戸惑っていた中学生たちも、帰る頃には「楽しかった!」「また来たい!」と表情を輝かせ、園児たちとの距離が縮まっている様子が印象的だったそうです。

いよいよ当日。会場となった小学校の体育館では、初めての大舞台に緊張気味の子どもたちも、一緒に出演する中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんに励まされ、練習の成果を発揮しました。保護者や地域の方に褒めてもらい、満足気な表情だったそうです。子どもたちにとって貴重な成功体験となったことでしょう。

学校の体育館では、初めての大舞台に緊張気味の子どもたちも、一緒に出演する中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんに励まされ、練習の成果を発揮しました。保護者や地域の方に褒めてもらい、満足気な表情だったそうです。子どもたちにとって貴重な成功体験となったことでしょう。

「地域の幅広い年代の方とふれあう機会は、子どもたちはもちろん、職員にとっても新しいことを吸収できる有意義な時間となっています」と辻美代子園長。

これからも地域とふれあうさまざまな活動にチャレンジされていくことでしょう。(堺市 T・K)

後記

あっという間に夏という間に、あっても、子どもたちのとびきりの笑顔に園内が弾みえ、園庭から子どもたちのしゃべり声も聞こえてきます。さて、4月末に行いました。保育士会総会ならびに記念講演には、たくさんの方々がご参加をいただきました。引き続き保育士会事業へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。